



目次

- P1 …センターにおける「療育」とは
- P2・3 …3階病棟・4階病棟の「療育活動」
- P4 …全体行事（センター祭）

カラフルとは、個性豊かな子ども達がその子らしく過ごしていくことや、時には他の色と混じって新しい色をつくりあげていくことを表現しました。

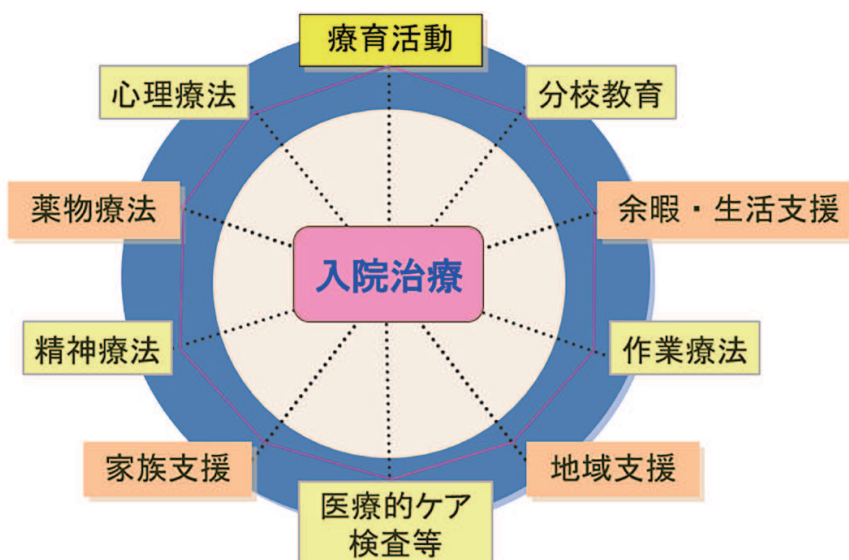
センターにおける療育活動

No.15号では、センターの児童精神科病棟における入院治療の一部である「療育」について、各病棟やセンター全体としての取り組みをお伝えします。

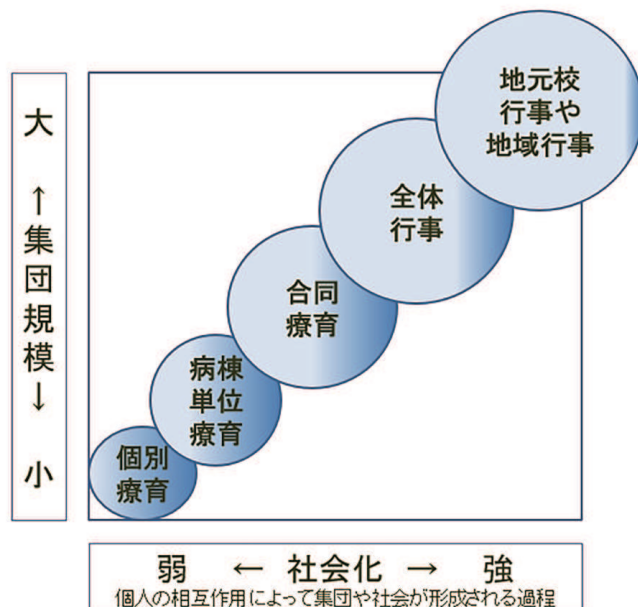
センターでは病院という機能を果たしながら、親元を離れて暮らす子どもたちが、社会から切り離されることなく、「あたりまえの生活」や「健やかな育ち」を育むことのできる病棟環境に努めています。これまでも、保育士や指導員など医療職以外の職種も関わり、入院した子どもたちの発達段階に合わせた生活指導やあそび、小集団活動や屋外での社会体験を積極的に導入してきた歴史があります。

また、薬物療法や精神療法、心理療法、作業療法など、様々な治療の一つとして、「療育」を位置付け、「育ってほしい姿」「身につけてほしいスキル」「乗り越えてほしい課題」という治療者側の明確な教育的狙いをもって、系統的、計画的に企画・実施・評価する集団活動を展開しています。入院中は、地域復帰及び地域での社会参加を目指し、「個別の関わり」→「病棟療育」→「合同療育」→「全体行事」と子どもの年齢や発達段階、障害特性、経験等に応じて集団規模に変化をつけた活動を進めています。

入院治療中の「療育」の位置づけ



センターの集団活動規模



病棟療育

3階病棟療育～個性を尊重しながら社会性を育む～

【病棟紹介】

3階病棟は、小中学生の女兒・小学校低学年男児・精神遅滞を伴う自閉症児が日々の生活を共にしています。看護師だけでなく、育ち支援課(保育士・福祉技術職)も交代で勤務し、意見を交わしながら、子どもたちの育ちを支えています。療育で学んだスキルを生活の中で汎化し、トラブルがありつつもそれを乗り越え、互いの違いを受け入れていく、その過程にスタッフは寄り添っています。小さな社会の中で大人も一緒に学ぶ、子どもが伸び伸びと過ごせる空間作りを心掛けています。

【活動グループ】

① ニコニコグループ活動(月・水・木／13:20～)

メンバー構成:精神遅滞を伴う小・中学生の自閉症児

活動内容:

「歩行」…気持ちの安定・交通ルールの学習

「買い物」…社会生活体験

「体育館運動」…身体機能の向上・運動による発散



② マーズグループ(火・水・金／14:20～)

③ ジュピターグループ(月・水・木／14:20～)

メンバー構成:②小学生低学年(1～4年生)

③ 小学生高学年(小5, 6年) ※4階入院児と合同

活動内容:

「運動/室内遊び」…鬼ごっこ・ドッジボール・卓球・カードゲーム など

「SST(ソーシャルスキルトレーニング)」…距離・あったか・ちくちく言葉、気持ちのコントロール など

「調理」…お菓子(おしろこ、ホットケーキ など) 「制作」…季節に合わせた制作



④ アースグループ(火・水・木／15:30～)

メンバー構成:中学生女子

活動内容:

「運動/室内遊び」…体づくり、強調性などを目的にした遊び

(鬼ごっこ。大縄跳びなど)

「生活スキル」…食事マナー、身だしなみ、調理など

「SST(ソーシャルスキルトレーニング)」…挨拶、休憩の方法、適切な人との距離など



合同療育

⑤ 小学生合同療育(毎月第4水曜日／13:15～)

メンバー構成:ニコニコグループ、マーズグループ、ジュピターグループ の参加児童

活動内容:

「運動」(鬼ごっこ、ドッジボール など)

ねらい:

生活場面や活動グループの違う子ども同士が、遊びを通じて交流する規模の大きい集団の中で、普段の療育活動で身に着けた力を発揮する



病棟療育

4階病棟療育～子どもたちの小さな一歩を多職種で支える～

【病棟紹介】

4階病棟は児童思春期(小学生高学年～中学3年生の男児)の子どもたちが入院しています。子どもたちは、不登校や家庭内でのトラブル、発達の特性による対人関係の困難などさまざまな背景を抱えています。この病棟の大きな特徴は、精神保健福祉士(MHSW)や公認心理師が常勤しており、日々の療育活動にも深く関わっていることです。専門的な視点から子ども一人ひとりの背景や気持ちに寄り添い、関係づくりや活動の工夫を行っています。日々の療育活動を通して、子どもたちが社会の中で安心して過ごす力を育むことを目指しています。例えば、人との関わり方を練習したり、自分の気持ちを上手く伝える方法を学んだり、身の回りのことを自分でできるようになることが大切な目標の一つです。私たちは、子どもが安心できる環境の中で、自分らしさを取り戻し、人との関わりに前向きになり、社会性の発達やセルフケアの獲得を目指して日々の療育活動に取り組んでいます。

【活動グループ】

① ファイングループ活動(月・水・木/13:20～)

メンバー構成:軽度精神遅滞を伴う自閉症児(中学生)

活動内容:

「生活スキル」・・・調理、買い物、SSTなど

「運動」・・・散歩、中庭・体育館遊び(ドッジボール、バドミントン、バスケットなど)

「室内遊び」・・・カードゲーム、ボードゲーム、制作活動など



② コニーグループ(月・水・金/14:20～、15:40～)

メンバー構成:中学生男子

活動内容:

「生活スキル」・・・調理、買い物、ミーティング、SST、外出練習など

「運動」・・・体育館運動、中庭遊び、散歩など

「室内遊び」・・・カードゲーム、ボードゲーム、制作など



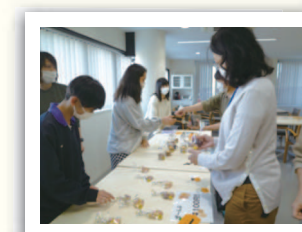
合同療育

⑥ 中学生合同療育(年間2クール/1クール5～10回(内容によって回数は変動))

メンバー構成:3階・4階中学生(男女混合)

活動内容:「運動/調理・販売」

ねらい:普段交流のない子ども集団の中で、意思表示や協調性など、社会性、対人スキルを身につける



全体行事（センター祭）



全体行事としての「センター祭」が、令和7年6月14日（土）に開催されました。あいにくの雨模様のため体育館も利用し、いつもより近くでの舞台発表を披露する形となりました。舞台発表では、入院児全員が自分の役割（係）に取り組む過程で、対人スキルを学んでいきます。この取り組みこそが治療的な介入の場面でもあり、自分の思いをどう伝えるか、疲れた時の休憩方法など、経験を通して学び、応用させるスキルの獲得を目指します。

センター祭当日は、今までの練習の成果が充分発揮された心暖まる発表になりました。

また、外来では、恒例の飲食店あそびコーナー、展示作品やフリマなども大盛況でした。ご家族や関係機関、退院したお子さんやそのご家族などを招待し、楽しいひとときとなりました。

全職員・子どもたち全員で作上げるセンター祭は、センターの療育活動の一番大きな行事となります。

子どもたちが、退院後、地域へ戻った際、どのような生活を送っていくか、常に想像し、入院治療の一貫として進めていきます。

センター祭後に病棟の子どもたちが見せる姿は、ホッとした安心感の中に、確かな成長を感じます。

広報委員会より

カラフルNo.15をお届けします。
夏の疲れは残っていませんか？
身体に気を付けて過ごしましょう。

広報委員（井上・岡原・野口・寺田・中根）



三重県立子ども心身発達医療センター

〒514-0125 三重県津市大里窪田町340番5

電話 059-253-2000（代）

FAX 059-253-2029

URL <https://www.pref.mie.lg.jp/CHILDC/>

